フブン館世界お伽噺（1）

十人王子

附外出姫

大波著

東京傅文館藏版

特

始

村104
834

緒言

世界お伽噺第一編　獨逸

十人王子　附外出姫

有名な獨逸のお伽作者であつた、グリム兄弟のお伽噺集にある、「ゼー、トウエルヴ、

ブラーザース。』の一章を『十人王子』と題名して、本書に紹介致しました。

無論筋にわ編者の創意を加え、原書の意味を變更致した點わ、大分ありますから、其おつもりでお讀み下さい！

十羽の野鳥が十字架を見かけて飛び來まーしたが、忽ち十人の王子となって火中に飛び込み、無事にお姫様を助け出しーまーた

世界お伽噺

第一編　お伽倶樂部著

十人王子

昔　獨逸の或地方に、十人の子を持つて居る王様が居りました。所がその子供等わ皆男の子ばかりでありました。

ある日王様わ女王に向つて、『若し此次に産まれる子が女の子であれば、十人の男の子を皆殺

大正
3. 3. 5
白文

して、その女の子に此王國を讓る。」と、云いました。

それから王様わ棺を十個作えて、秘密室に入れて置きました。そうして其秘密室の鍵を女王に預けて、其事を誰にも云わぬ様に堅く云い付けて置きました。

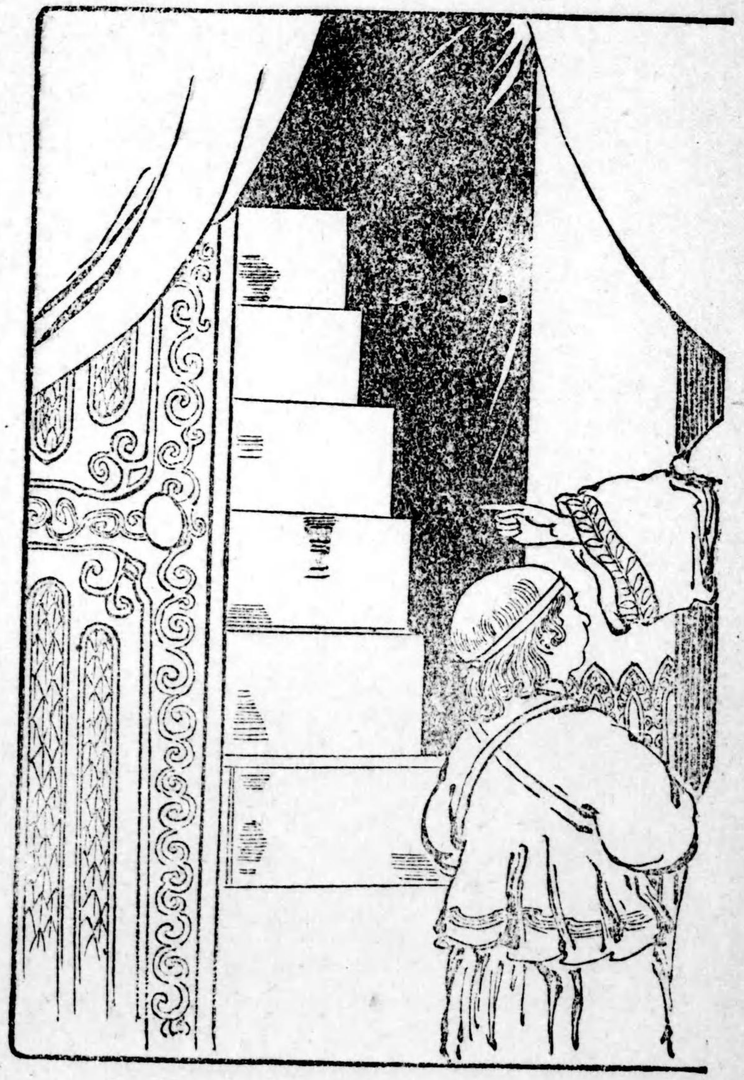
所が女王わ非常に心配して、其日わ一日坐つたきりで泣いて居りました。

するといつも女王の側にばかり遊んで居りました、一番幼い王子のハインリッヒわ、母の泣

いてるのを見て、不思議に思つたんで、「お母様！何が悲いんで、そんなにお泣きなさるんです？」と、尋ねました。

女王わハインリッヒに尋ねられたんで、尙更はり裂くる様な思をして、手巾を顔にあてゝ泣きつぶれました、が、やがて身を起してハインリッヒの手を取つて、秘密室え連れて行きました。

女王わ秘密室の扉を開けるや、其所に列んで居る十個の棺を指示して、「ハインリッヒ！此



等の棺わ、お前等十人の兄弟の爲に、お父様の命令によつて作えられたので、若しお母様が女の子を産んだなら、お前等わ皆殺されて、此棺に入れられるのです。』と、云いながら聲を立て泣きました。

幼いハインリッヒわ、お母様を慰むる様に、『お母様！お泣きなさるな！それじや吾々わ今宵の中に此城を逃げましよ。』と、云いました。

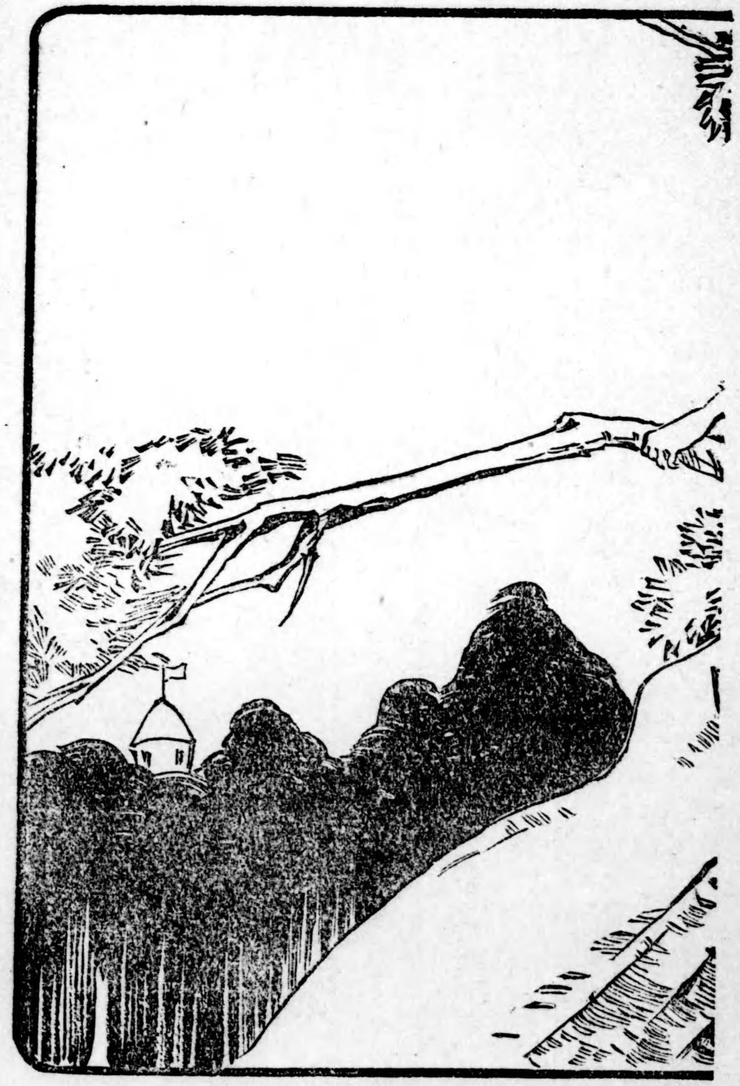
女王わ暫く思案した後「ジヤお前等わ今宵の中に森え行つて、順番に高い樹に登つて、お城

を見張りなさい、若し母様が男の子を産んだ時わ、城の屋根に白旗を立てるから、其時わ、お前等わ急いで城えお歸りなさい、若し又不幸にも女の子を産んだ時わ、赤旗を立てるから、其時わ、すぐと何所えでも人の眼に止まらぬ所え逃げてしまいなさい、母様わ、お前等の爲に、寒い時節にわ暖くなる様に、暑い時節にわ涼しくなる様に、神様に祈ります。』と、云つて女王わ一室に十人の王子を集めて別れを告げました。

其所で十人の王子わ、母に云われた通りに森

世界お伽噺

十人王子



え行つて、順番に高い樹に登つて、お城の方を見張つて居りました。

ちようど十日目わハインリッヒの番で、相變らず高い樹に登つて、お城の方を見張つて居りました。するとお城の屋根に旗が飄りましたが、然し、其旗わ彼等が待ちに待つたる白旗でなく、彼等にとつて最も不吉であつた赤旗でありました。

彼等わ其赤旗を見て、大變腹を立てゝ、僅か一人の女の子の爲に十人の男の子を殺す樣な、

そんな不公平極る王樣の所置に對して、あくまでも抵抗し、之れからさき女の子わ見付け次第に用捨なく、斬殺す事に定めて、尙、奥深く森え逃げ込みました。

余程、歩くと不意に薄暗い所え出ました、其所に一ッのみすぼらしい小屋がありました。

十人の王子等わ、この小屋を彼等の住家と定めて、ハインリッヒわ未だ年もいかないし、身体も弱いもんだから、留守番に殘して、其他の九人の王子等わ、手に手に弓箭を持つて獵に出

掛けました。

此森で、彼等わ兎だの、鹿だの、山鳩だの、雉だの、其他喰べる事の出來る色んな鳥類を射つて來ました。

斯様にして十人の王子等わ、かれこれ十年間此小屋に住んで居りました。

話變つて、お城の方でわ、女王の産み落しました玉の様な女の子わ、すつかり御成人遊ばして、立派なお姫様となりました。

所がこのお姫様わ稀なる美人で、おまけに額

に金の黒子が一ッありました。

ある夏の日お城に、大きな土用乾がありました、其時お姫様わ母の女王と一所に、衣類を乾して居りました、するとお姫様わ十枚の子供の着るシャッを見て、誰のかしらんと不思議に思つたんで、其中の一枚を手に取つて、『お母様！此シャッわ、お父様のにしてわ余り小さ過ぎますが、一体誰れのシャッなんです？』と、女王の前に差出して尋ねました。

女王わ十人の王子と別れてから、唯の一日も

世界お伽噺

十人王子

彼等の事を思わぬ日とてもなく、心中嘆いて居りましたのに、今又、彼等の遺物とも云う可き十枚のシャツを見たんで、もう、胸が塞り、言葉よりも涙が先に出ました。

女王わ落ち來る涙を手巾に押えて、『嬢よ、此等のシャツわ、お前の十人の兄弟のシャツです』。と、云いました。お姫様わ驚いて、『そんな事わ今まで聞いた事がありませんが、何所に、私の兄弟が十人居りますか？』と、尋ねました。

女王わ涙ながらに、『アー彼等わ今頃、何所に

何うして居るか知らぬが、恐らくわ、食物もなく着物もなく、嘸ぞ困って居る事でしょ。』と、云って、秘密室えお姫様を連れて行って、十個の棺を示して、泣き〳〵今迄の事を殘らずお姫様に語りました。

するとお姫様わ、『お母様！　決して御心配なさいますな、之から私わ十人の兄弟を捜して參ります！』と、云って十枚のシャツを携えて、お城を出發致しました。

お姫様わ遇然にも十人の王子等が隱れて居る、

森え尋ねて行きました。そうして日の暮れ方、ハインリッヒが留守番をして居りました小屋え着きました。

ハインリッヒわお姫様の美い奥ゆかしい容貌と、額の金の黒子とに驚いて、『貴嬢わ斯んな所え何所から、お出になりました？　また之れから何所え行くんです？』と、いと慇懃に尋ねました。

するとお姫様わ、『私わある王様の王女でありますが、只今十人の兄弟を捜しに参りました。』

と、云いながら持って参った十枚のシャツを、ハインリッヒに示しました。

ハインリッヒわ、現在自分の妹が、今思いがけなくも、目前に現れたんで、嬉しさの余り、『僕わハインリッヒで、お前の一番若い兄弟です。』と、叫びました。

お姫様わ自分の捜す兄弟が意外に早く見つかったんで、嬉しくつて、ハインリッヒに飛びつきました。

するとハインリッヒわ、『妹よ！　今計らずも

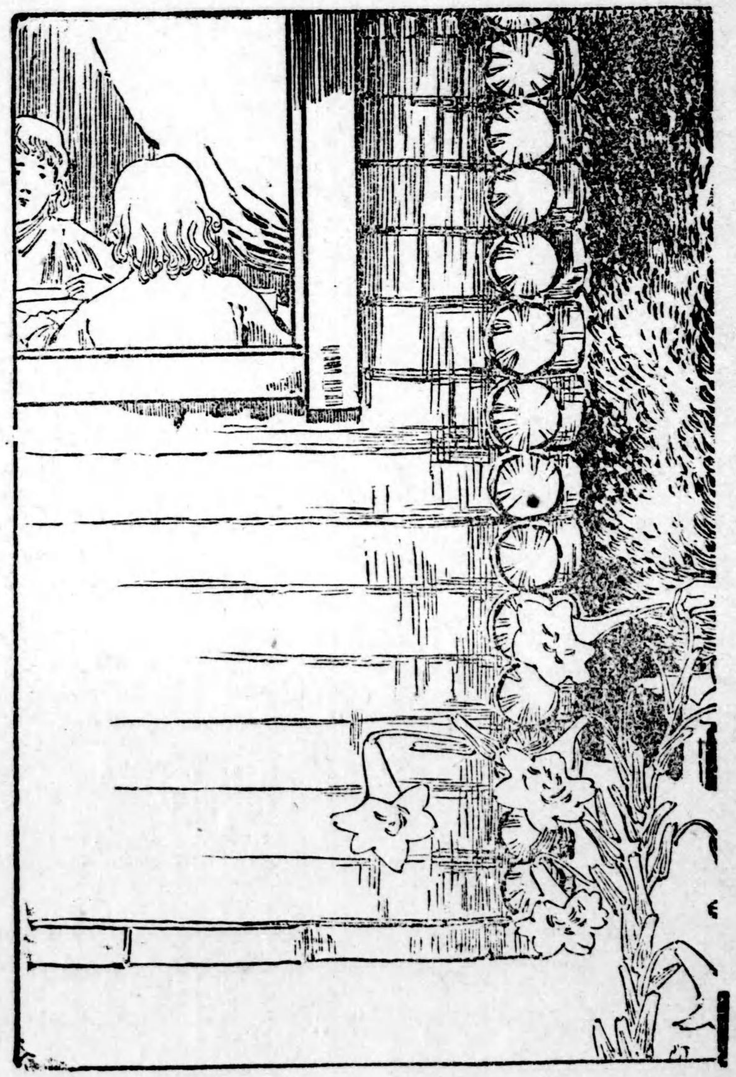
お前と遇つて、之れ程嬉い事わない、が、此所に一ッ非常に悲しい事がある、と云うのわ、も と吾等わ女の子の爲に、王國を捨てゝ斯んな所に、彷徨うて居るんですから、女の子を見つけ次第、誰れ彼れの用捨なく斬殺す事に定めてあるのです。』と、語りました。

お姫様わ之を聞いて、『皆様が、御無事にお城へ歸る事が出來るんなら、私わ喜んで死にます。』と、云いました。『イヤ、僕わ決してお前を殺す様な事わせぬ、左に右少し考もあれば、窮屈で

も、此小さい盥の下に隠れて居なさい！』と、ハインリッヒわお姫様の手を取つて、盥の下に隠しました。

間もなく九人の王子等わ、獵から歸つて來たんでハインリッヒわ彼等に向つて、『サテ皆様！此ハインリッヒが皆様に一つの御願があります。』と、改つて申しました。彼等わ一同に、『改つて願と云うのわ何です？』と、尋ねました、『イヤ外でもないが、今此所で遇う女丈わ殺さないと云う契をしてもらいたい。』と、ハインリッヒわ

十人王子



世界お伽噺

云いました。彼等は變に思いました、が、「ヨシ聞いて遣ろう。」と、云つたんでハインリッヒわ盥の側にッカ〳〵と進み寄つて、「皆様！此所に吾等の妹が居ります！」と云いながら盥を取りました。

すると額に金の黒子のある奥ゆかしい容貌のお姫様が現れて、「オヽ兄様お懐しう御座います。」と、彼等の手を握りました。彼等も又大變喜びました。

其後お姫様わハインリッヒと一所に小屋に殘

つて、九人の王子等が獵に出掛けた後で、小屋を奇麗に掃除をしたり、食事の支度などをして、彼等の歸るのを待つて居りました。

斯んな風に十人の王子等わお姫様と一所に、樂く暮して居りました。

或日彼等は一つの食卓をとりまいて、お姫様が心をこめて料理した、結構な御馳走を喰べて居りました。ちようど其時小屋のまわりの小さい花園に、十輪の奇麗な白い百合の花が、今を盛りに見事に咲いて居りました。

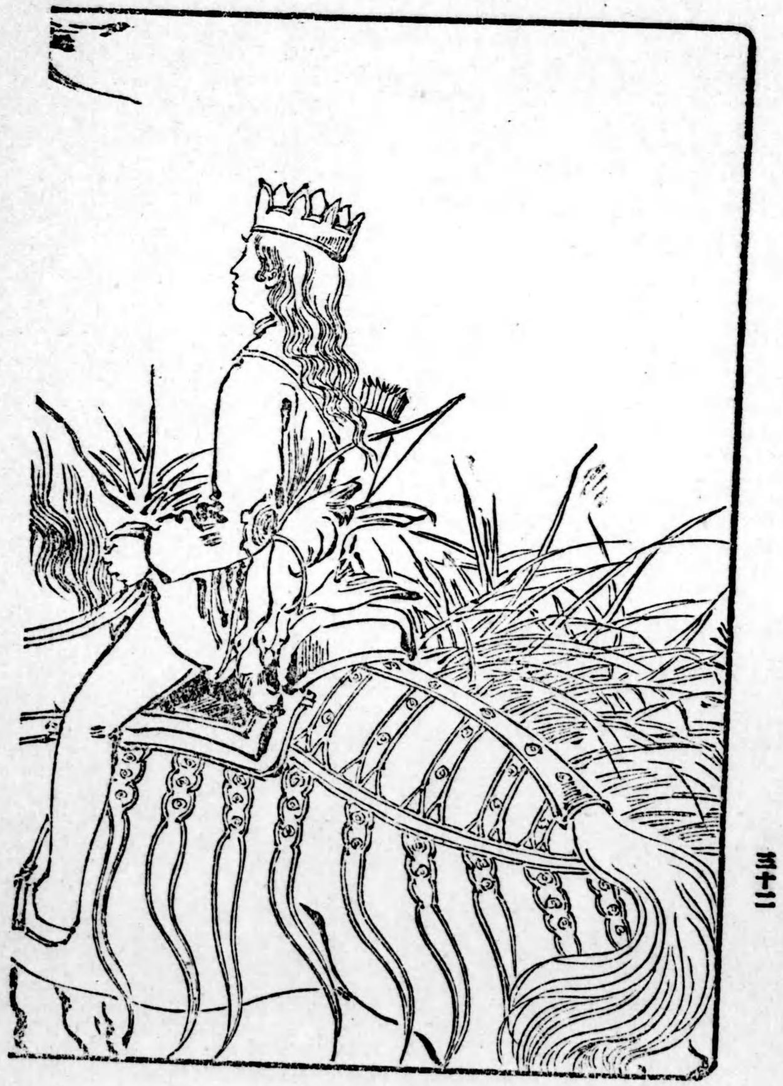
お姫様わ王子等に一枝宛此花を差上げ様として、花園に降りて、皆摘んでしまいました。

すると忽ち十人の王子等わ、皆野鳥となつて、森え飛んで行きました。同時に、小屋も花園も無くなつてしまいました。

お姫様わ喫驚してまわりを見ると、薄暗い森の中に、たつた自分一人殘つて居りました。

所え一人の老婆さんが現れて、「コレ王女！なぜお前わ、あの百合の花を取つたんです？あの百合の花わ、今野鳥になつて飛んで行つた、

十人の王子等の精でありました。』と、云つたんで、お姫様わ驚いて、『アヽお老婆さん！何うしたらよいでしよ？何うか元の王子にする方法がありませんか。』『イヤある、たつた一ッ方法が有ります、が、お前に話しても、到底出來ない、と云うのわ、七年の間唖者とならねばならぬ、若し其間に、一寸でも話したり、笑つたりすると、十人の王子等わ元の姿に返る所か、忽ち死んでしまいます。』と、云つてお老婆さんわ見えなくなりました。



お姫様わ何しても、彼等を元の姿にしなきやならんと覺悟して、夫から高い樹の上に登つて其所で絶えず糸を紡んで、物も云わず、また笑いもせず、まるで啞者の様にして居りました。

所えちようど、ある一人の若い王様が、大きな獵犬を連れて其森え獸獵に來ました。獵犬わ香を嗅いで、お姫様の登つて居りました樹の下え來て、上を向いて烈しく吼えました。

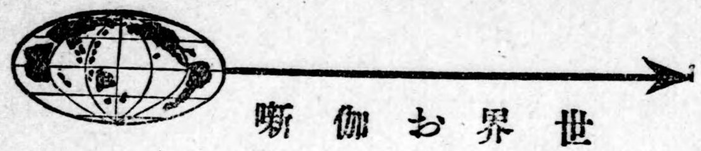
王様わ不思議に思つて其所え來て見ると、額に金の黑子のあるお姫様が樹の上に居りました。

王様わお姫様を見ると直ぐ其樹え攀じ登つて、安全に下え助け降し、自分の馬に乘せて、お城え連れて歸りました。

夫から王様わお姫様の承諾を得て、立派な結婚式を擧げて、御夫婦になりました。

所が花嫁のお姫様わ物も云わず、又笑もしないで、殆ど五六年間わ、至つて幸福に暮しました、が、此所に意地の惡い繼母の爲に、かれこれと惡口を云われて、遂に王様の御機嫌を害ね、いよ〳〵無實の罪によつて、火焙りの死刑に處

十人王子



世界お伽噺

せらるゝ事となりました。

可哀そうにお姫様わ山の様に積み上げられた薪の眞中に、十字架に括し上げられて、怨めしそうに天を瞰んで居りました。

間もなく薪に火の點くや、折しも北風劇しく、火わボーく〳〵と燃上り、恐ろしい焔の赤い舌が今しもお姫様を燒殺そうと致しました。すると空中に可恐しい雷鳴起り、十羽の野烏が十字架を見かけて飛んで來ましたが、忽ち十人の王子となつて火中に飛ひ込み、無事にお姫様を助け

出しました。

アちようど此時が七ケ年の滿願の日でありました。

お姫様わ此所に始めて物を云う事が出來たので、王様に今までの事を詳しく語つて、お詫を致しました。

すると王様わ疑を晴らし且つお姫様の健氣な心に感じて、また更めて立派な結婚式を擧げられ、十人の王子等わお姫様に永別を告げて、無事に父のお城え歸りました。

めでたし！　めでたし！

世界お伽噺第壹編終

世界お伽噺

附錄

外出姫

外出姫は露西亞の或る王様の、可愛い一人娘でありましたが、讀んで字のごとく、家を外に出あるくのが何より好きで、それがためには、隨分、御附の女中なども、大騒ぎをする事がありました。

或朝のこと、御姫様は暖い寢床を、そつとぬ

け出して、お庭傳いに裏門から、大きな森へと出掛けて行きました。

さうして御姫様は足の運びにまかせて、ズンズン森の奥へ入ると、大きな家が一軒ありました。たから、何氣なく案内も乞はずに、入口の戸を押しあけて中を見ると、誰一人居さうもないのに、美味さうに湯氣の立つた、お汁のお腕が三個と、炊きたての御飯がお鉢に山盛在りました。

是を見た御姫様は急にひもじくなつて、何の氣なしに、部屋へ入つて、お汁と御飯を食べて

了ひました。

だが此家は年久しく、此森に住んで居る、親子三人の黑熊の家で、今しがた三人の黑熊は朝食のお汁や御飯のさめる間、裏庭に遊んで居たのでありました。

御姫様は其様な事とは、少しも氣附かず、暖い、お汁や、炊き立ての御飯で、お腹が出來ると、もう宮殿へ歸へるのも忘れて、なほも奥へ入つて行きました。

すると大きな圍爐に、どつさり火の燃えてる

所がありましたから、

『寒い時の御馳走には、焚火に限るわ！……』

などゝ、ませた事を云ひながら、まるで叔母さんの家へでも來たやうに、馴れなれしい樣子で毛糸の手袋を脱いだりして、冷たい手先をあたためて居りました。

話變つて、親子三人の黑熊は、お汁や御飯の冷めた時刻を見計つて、家へ戻つて見ると、影も形も見えないので、三人共驚いてると、どうやら奥に何者か居るやうな、氣振がするので、

『此奴は變だぞ！……誰か居るわい！……』

と、言ひながら、足音しのばせて、奥へ來て見ると、少さな女の子が、落附き拂つて圍爐に暖つて居りましたから、三人の黑熊は二度びつくり、開いた口もふさがらず、身動きもせずに、果然そこに突立つて居りました。

所が御姫樣は、至つて熊が厭いなのに、出たにも出たにも、一時に三匹も大きな熊が、不意に出て來たんで、膽をつぶして、

『キャフ！……。』

と、泣きながら、無我夢中に、窓かも飛び出すが早いか、後をも見ずに、一目散に逃げ出してやう〳〵の思ひで、宮殿へかへつて來ました。

それからといふものは、外出好きな御姫様ももう、こり〳〵して、一足も外へ出ずに宮殿のうちにばかりゐて、一生懸命に學問や遊藝などを勉强して、しまひには偉い御姫様になりました。

世界お伽噺附錄　をはり

276
1491

世界お伽噺

定價　各冊　金拾錢
郵税　各冊　金二錢

（編次）

第一編　十人王子
第二編　少年の冒險
第三編　黄金の魚
第四編　火打箱
第五編　哀れな少女
第六編　大膽な少年
第七編　薔薇娘
第八編　金羽の鷹
第九編　雪姫
第十編　二人兄弟
第十一編　魔法の釵
編　姉妹王女
編　旃檀物語
編　頓智娘

（編次）

第十五編　臆病惡魔
第十六編　笛吹愚助
第十七編　象の賭
第十八編　藁の牡牛
第十九編　王女の人牲
第二十編　蛙國漫遊
第廿一編　忠婢モルギアナ
第廿二編　殺鬼太郎
第廿三編　鳩姫
第廿四編　二人孤兒
第廿五編　兄と妹

以下順次出版

大正三年二月廿日印刷
大正三年二月廿日發行

不許複製

編輯者　お伽倶樂部
東京市日本橋區馬喰町四丁目十六番地
發行者　久保田長吉
東京市淺草區左衛門町壹番地
印刷者　岩見米三郎
東京市淺草區左衛門町壹番地
印刷所　精美堂
東京市日本橋區馬喰町四丁目十六番地
賣捌所　博文館
振替東京一七一九九番
電話浪花　三八一九番

第貳編

少年の冒險

附まめな蠶豆

本書わ讀んで面白く、筆法平易流暢、少年諸君に對して無二の好本なり、宜しく一日も速かに、御購讀あらん事を希望致します。

☆

☆

終